

平成 27 年 (2015 年) 10 月 16 日 <No-11>

長野県松本家畜保健衛生所
〒390-0851 松本市島内西川原 6931
TEL:0263-47-3223 FAX:0263-47-0101
E-mail:matsukachiku@pref.nagano.lg.jp
中信家畜畜産物衛生指導協会
TEL:0263-47-6789

かほだより



来春に向けた蜜蜂の飼養管理



～越冬前の今の時期がポイントです～

本年は春先の気候も良く、植物の開花も順調で、働き蜂は採蜜に大忙しの地域が多かったようです。10月に入り、もうすぐ冬を迎える季節となり、蜜蜂も越冬の準備をする時期となりました。冬の寒い時期を蜂の消耗をできるだけ少なくし、蜂群の活力を保って来春の採蜜期に活躍してもらうためには、この越冬準備期の蜂群管理が最も重要なポイントといえます。今回の広報では本年度の蜜蜂腐蛆病対策と併せ、この越冬準備期の管理について紹介します。

腐蛆病にご注意ください

平成 27 年度の定期検査で当所管内の 4 戸 8 群(松本市、安曇野市、木曾郡上松町、山形村)で蜜蜂腐蛆病が発生しました。当該蜂群では幼虫に異常がみられ、肉眼的検査、ミルクテスト等の一次検査により陽性となった時点で異常群の巣門を閉鎖し、蜜蜂を含む巣箱、巣脾などの汚染物品焼却し、まん延を防止しました。

腐蛆病とは

細菌により蜜蜂の幼虫(蛆)が腐る病気です。家畜伝染病予防法で法定伝染病に指定されており、次の2種類があります。

★アメリカ腐蛆病

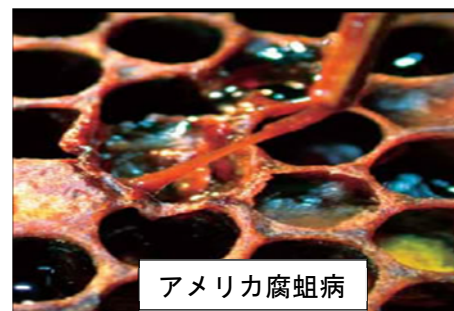
- ・感染後死亡した幼虫はすぐに巢外に出されるため、巣房が空になる。
- ・これを耐過した幼虫は、巣房に蓋をし(有蓋巣房)、さなぎになる間に死亡し、腐蛆になる。
- ・腐蛆は独特の臭いがあり、幼虫が溶けて液状(褐色、粘着性)を呈する。

★ヨーロッパ腐蛆病

- ・幼虫は巣房に蓋をする前に死亡して、無蓋巣房内に死亡幼虫がみられる。
- ・腐蛆は溶解せず、粘着性なし。特徴的な発酵臭と酸臭がある。



理想的な蜂群



アメリカ腐蛆病

適切な飼養管理をしましょう

★使用した養蜂用具を十分に消毒しましょう

- ・今年使用した巣箱や巣板などは火炎、燻蒸(酸化エチレン等)、電子線照射などで十分に消毒しましょう。燻煙器、ツール等の金属製の器具などは消毒液の浸漬による消毒も有効です。

★十分な給餌を行い、蜂群の強勢を保ちましょう

- ・越冬前には十分な給餌を行い、免疫力を保持し、蜂群の合同などにより強勢を保つようにしましょう。この場合、花の少ない夏場から群の勢力を維持することが重要です。夏場から蜂の数を増やすことによって貯蜜を充実させ、冬場の保温力を高めることができます。

★蜂群を良く観察しましょう

- ・定期的な内検によって群内の蜂数、群勢等蜂群の状況を良く観察し、異常の早期発見に努めましょう。

★予防薬(アピテン等)を使用する場合は、用法用量を遵守し、休薬期間(採蜜できない期間)を厳守してください。

★「急に蜂の数が減った」「巣箱から変な臭いがする」等、「蜂群の様子がおかしい」と感じたら、家畜保健衛生所にご連絡ください。

問い合わせ先: 防疫課 宮澤、佐藤 (担当)